

【様式】

令和3年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立四日市南高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校像	高い志と豊かな人間性を育てることを基本に、一人ひとりの可能性を引き出し、自己実現と進路実現を図る。
(2)	育みたい児童生徒像 ○明確な目的意識を持ち、主体的・協働的に学び、学ぶ楽しさを感じながら互いに高めあっている姿。 ○ホームルーム活動、生徒会活動、部活動、特別活動などに積極的に取り組み、これらを通じて豊かな感性、人権意識、他者への思いやり、忍耐力、コミュニケーション力、向上心などを身に付け、社会に貢献する意思と力を得ている姿。
	ありたい教職員像 ○高い志と豊かな人間性を備えた生徒たちの自己実現・進路実現を図るため、関心や意欲を引き出し、知識・技能を伝え、思考力・判断力・表現力を高める教育活動を展開するとともに、自らも学び続ける教職員。 ○地域及び家庭との連携を積極的に図り、社会からの信頼を築く努力をし続ける教職員。

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒> ○すべての教育活動を通じての充実した学校生活と自己実現・進路実現。</p> <p><保護者> ○すべての教育活動を通じての子どもの充実した学校生活と自己実現・進路実現。</p> <p><地域> ○学校と地域が連携した諸活動への生徒の積極的な参加による地域の活性化と、それらを通じた地域の未来のリーダーの育成。</p>	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><保護者> ○子どもの様子や進路情報等の積極的な発信。</p> <p><中学校> ○卒業生の様子、本校の教育活動、高校入試情報等の積極的な発信。</p> <p><地域> ○学校と地域が連携した諸活動への積極的な参加。施設開放。</p>	<p><保護者> ○本校教育活動への理解と協力。基本的な生活習慣の確立と家庭内学習環境の整備。</p> <p><中学校> ○本校への期待と中学生の進路希望にかかる動向の共有。本校受検生の基礎学力の定着と基本的な生活習慣の確立。特に配慮を要する生徒にかかる情報共有。</p> <p><地域> ○本校教育活動への理解と協力、本校に不足する教育力の提供、本校の教育活動にかかる情報共有。</p>
(3)前年度の学校関係者評価等	<p>○キャリア教育の取組の成果がでている。今後も多様性を重視し様々な事に挑戦できる学びの取組の継続をされたい。</p> <p>○新しい取組も必要であるが、今まで継続してきた校風の醸成も重要である。公立高校として生徒の総合的な「学力」を高めてほしい。</p> <p>○子どもたちの安全で安心した学校生活に向けて、教育相談体制の充実や施設設備の改善をすすめてほしい。</p>	

(4)現状と課題	教育活動	<p>○新型コロナウイルス感染症対策と学校教育活動の両立を図ることが急務である。</p> <p>○各教科の学習、学校行事、部活動、探究的・体験的学習等、本校の教育活動全般にわたり真面目に取り組む生徒が多い。今後も、知識・技能と思考力・判断力・表現力、主体的に学ぶ力等のさらなる伸長を図る必要がある。</p> <p>○生徒指導、ホームルーム活動、人権教育、主権者教育、命を大切にする教育等を通じ、社会的スキルを有し、自他を大切に、互いを勇気づけられる生徒の育成は今後も重要である。</p> <p>○人間関係上の課題、心身の成長にかかる課題等から特に配慮が必要な生徒に対して、教職員間および関係機関等との連携・協働のもと対応を進めているが、さらに組織的な対応が不可欠である。</p>
	学校運営等	<p>○地域との連携を核にした探究的・体験的学習について、学校全体での取組にどのように展開していくかについて検討が必要である。</p> <p>○教員の働き方改革、コンプライアンスの確保も急務かつ重要である。このため、業務の精選と効率化、教職員間および関係者との連携・協働の強化、危機管理にかかる仕組と意識の充実が課題である。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○高い志の育成 各教科の学習等により将来を切り拓くために必要かつ重要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を身につけられるよう指導の充実を進め、高い志を育む。</p> <p>○これからの社会を生き抜く力の育成 学校行事、生徒指導、ホームルーム活動、人権教育、主権者教育、命を大切にする教育、部活動等を通じて豊かな人間性を育み、知・徳・体の調和がとれた、これからの社会を生き抜く力を持った生徒の育成に取り組む。</p>
学校運営等	<p>○教育改革への対応 授業力・指導力等のさらなる向上に取り組むとともに、カリキュラムマネジメントの的確な実施を図る</p> <p>○組織力の向上 コンプライアンス確保の仕組と意識の充実を進めつつ、一層効果的かつ効率的な組織運営を進めていく。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
感染症に強く持続可能な学校生活の構築	1) 感染防止対策と学校教育活動の両立を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・三重県緊急事態措置に伴い、8月26日～10月1日まで在宅学習(分散登校あり) ・校内での感染拡大 0件 ・体育祭・文化祭の中止、修学旅行の延期・縮小 ・在宅学習期間のオンライン授業実施率 100% 	◎

<p>高い志の育成</p>	<p>1) 3年間の進路ストーリーを示すとともに、発達段階に合わせ進路講話・進路講演会を効果的に実施して、高度な学問への夢を引き出す。</p> <p>2) 個人面談の充実、部活動・特別活動・大学オープンキャンパスへの積極的な参加、課外授業への受講奨励などにより、一人ひとりが進路希望を実現し、社会貢献できるよう、学力の向上を図る。 【活動指標】各学年年6回の個人面談の実施、定期的な進路説明会・講演会の実施。 【成果指標】生徒の高校生活全般への満足度90%</p> <p>3) カリキュラムマネジメントや観点別評価により教科横断的な学習を推進し、思考力・判断力・表現力等をより広く深い身につけられるよう取り組む。</p> <p>4) 主体的・対話的で深い学びやICT機器の効果的な活用等により、将来にわたって通用する学力を向上させる授業の充実を図る。</p> <p>5) 「予習→授業→復習」の学習サイクルに基づいた学校（授業）中心の学習習慣が定着するよう取り組む。</p> <p>【活動指標】生徒による授業等の評価の実施 【成果指標】生徒の授業への理解満足度90%</p>	<p>【活動指標】 各学年年個人面談 6回以上（オンライン含む） 進路説明会・講演会 各学年で実施（オンライン含む） 【成果指標】 生徒の高校生活全般への満足度 87.5%（R3年10月調査）</p> <p>【活動指標】 各中間考査時にアンケート評価の実施</p> <table border="1" data-bbox="1023 562 1321 835"> <thead> <tr> <th></th> <th>1学期</th> <th>2学期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・技能等</td> <td>96%</td> <td>89%</td> </tr> <tr> <td>思考力等</td> <td>90%</td> <td>83%</td> </tr> <tr> <td>主体性等</td> <td>86%</td> <td>81%</td> </tr> </tbody> </table> <p>（それぞれ観点の向上を感じている生徒の割合）</p> <p>【成果指標】生徒の授業への理解満足度 87.8%（R3年10月調査）</p>		1学期	2学期	知識・技能等	96%	89%	思考力等	90%	83%	主体性等	86%	81%	
	1学期	2学期													
知識・技能等	96%	89%													
思考力等	90%	83%													
主体性等	86%	81%													

<p>これからの社会を生き抜く力の育成</p>	<p>1) 自他の命の大切さについて様々な機会に触れ、いじめのない安全安心な学校生活を営むことができるよう、命を大切にする教育にかかる指導計画・学校いじめ防止基本方針等に基づき取り組む。また、マナーや挨拶・服装指導を通じて、社会人としての品性を身につけられるよう取り組む。</p> <p>2) 学年・ホームルーム経営、学校行事への取組、部活動、人権教育、保健指導、教育相談、特別支援教育、読書指導等を通じて、自己肯定感の涵養、豊かな社会性の育成を進める。また、特に大きな課題、重い課題、個別の課題を抱えた生徒に対しては、必要に応じて専門機関等と連携しながら、適切に支援する。 【活動指標】各学期のいじめに関するアンケートの実施 【成果指標】安心して学習できている生徒の割合 90%</p>	<p>【活動指標】 期末考査時にいじめに関するアンケートの実施</p> <p>【成果指標】 安心して学習できている生徒の割合 96.9%（R3年10月調査）</p>	
-------------------------	--	--	--

改善課題

- 「三重県緊急事態措置」により、2学期当初に約1カ月に亘るオンライン授業の実施となり、行事の延期・中止・縮小を行わざるを得なくなった。このことが生徒の学校生活への満足度が低下する原因である。
- オンライン授業も含め生徒の学力保障に努めたが、学力の2極化等の課題も生じている。
- 本年度は人権に係る事象が発生し、生徒の実態把握・学習内容の再構築を行った。次年度に向けて改善点を明確化し、人権カリキュラムの見直しを図る必要がある。
- 急激な社会情勢の変化を受け、様々な課題を持つ生徒が顕在化しており、的確な初期対応や専門機関との連携を学校組織として対応できる体制づくりを進めることが急務である。
- ICTを活用した教育の在り方については、さらなる研究・実践が必要である。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
 【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教育改革への対応	1) 人権教育・カウンセリング・特別支援教育等に焦点をあてた現職教育を実施し、教職員のこれらにかかる専門性の向上を図る。 2) 新学習指導要領、大学入試制度改革、ICT教育等の情報収集や校外研修に積極的に参加し、学習指導・進路指導等にかかる専門性の向上を図る。 【活動指標】各種現職教育の実施、校外研修への参加 【成果指標】職員の専門性向上への満足度 80%	【活動指標】 各種現職教育の実施、 校外研修への参加率 57.9% 【成果指標】 職員の専門性向上への研修の情報提供満足度 78.9%	
組織力の向上	1) 教職員間の積極的な情報共有を進め、チーム学校として業務に取り組める体制・組織づくりを進める。 2) コンプライアンスを確保し、地域・保護者から信頼される組織となるよう、「信頼される学校であるための行動計画」に基づく取組を進める。 3) 教職員一人ひとりがやりがいと誇りをもてるような働き方改革を進める。 【活動指標】 ・月に一度の定時退校日、週に一度の部活動休養日の実施、 ・会議の精選と放課後に開催され60分以内に終了する会議の割合95% 【成果指標】 ・時間外労働時間4時間/月削減 ・休暇取得日数1日/年増加 ・「指針」の示す時間外在校等時間の上限(①月45時間以内 ②年間360時間以内③特別の事情のある場合は6ヶ月以内で月100時間未満で年間720時間以内(連続する月の平均80時間以内))を上回る教員0人	【活動指標】 ・定時退校日 13日設定 ・放課後60分以内に終了する会議割合 89.7% 【成果指標】 ・時間外労働時間 +0.7時間/月 ・休暇取得日数 +0.9/年 ・「指針」の示す時間外在校等時間の上限を上回る教員 3人	※

改善課題

○新学習指導要領の実施、観点別評価、大学入試改革、教育の情報化等の急激な教育の変化を受け教職員の研修に対する要求は高い。研修に係る時間や方法の検討を進め、研修できる環境整備が求められる。
 ○成績処理に係る不適切な事案が発生しており、発生した事案の原因や背景を分析するための研修を実施した。効果的な対策を講じ再発防止に努める。
 ○働き方改革については、一部教員の時間外在校時間が高くなる傾向がある。分掌の見直し、業務の進め方について再度確認することが必要である。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	○新学習指導要領の円滑な実施と南高校の伝統である多様性を重視し様々な事に挑戦できる学びの取組の継続。 ○個別最適化により大学入試改革にも対応できる「学力」の育成。 ○様々な課題を抱える生徒の支援体制のより一層の充実。 ○子どもたちの安全で安心した学校生活に向けて施設設備の改善。
---------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	○感染症対策を行った学校教育活動の構築により平常化を早急に進める。 ○「学力」のさらなる伸長を図るため、ICTを活用した個別最適化の学びの研究と教科等横断的な取組を総合的な探究の時間を中心に構築する必要がある。 ○すべての教育活動を通じ、自他の価値を認め、尊重しながら、自己実現を可能にする生徒の育成は今後も重要である。 ○生徒の支援について、初期対応を含めさらなる組織的な対応を進める必要がある。
学校運営についての改善策	○ICTの利活用を含め教職員の専門性の向上が図れるよう、研修の充実や情報の提供を進めることが必要である。 ○学習端末導入等に保護者の負担を考慮し、可能な限り保護者負担の軽減する必要がある。 ○チーム学校として、教員の働き方改革、コンプライアンスの確保も急務かつ重要である。